

## 12

マッジョ 『王室結婚式における戦争祭典の記録書』 高貴なるキリスト教徒のスペイン王カルロス2世とブルボン王朝マリア・ルイーザ王女との

**Maggio, Pietro. Le guerre festive nelle reali nòzze de' seren ìssimi, e cattolici re di Spagna Carlo Secondo, e Maria Luisa di Borbone, celebrate nella Felice, e Fedelissima Città di Palermo, nell' Anno M. DC. LXXX.** Relazione storica descritta dal M. R. P. Pietro Maggio. Palermo, Giuseppe la Barbera e Tomaso Rummulo & Orlando, 1680. 80 p. 15 plates (copper. mono.) 29.4 × 21.0cm <236. 05-M>

Hiler p. 561 Lipp. 2750

式典は幸福で忠実なるパレルモ市において同市の最も高名なる議員でスペイン総督であるベナビデス、アビノ及びボルリーリャ王ドン・フランチェスコが式典長であった。その他サン・ステファノ伯、コセンタニア伯、デル・リスコ伯、ラス・ナワス侯、ソレーラ侯、王国の騎士長、ヒアエンの大司教、諸王宮長、城塞長、アビラ市の終身司教、聖ジャコモ騎士団長、モンレアル騎士長、副王、領主、当シチリア王国付総騎士長などが協力した。

また、カマストラの公爵ドン・ジュセッペ・ランツァをはじめサンド・ステファノ王子、テッラ・ディ・ピッティネオ及びマガイド男爵、騎士アビト・ダルカンタラ、砲兵隊長、大隊長、司法枢機卿その他男爵、議員大勢。1680年。記録者：オラトリオ会ピエトロ・マッジョ神父。パレルモ刊。

カルロス2世（1665—1700年）はフェリペ4世の息子でハプスブルグ家最後のスペイン王。1680年にブルボン王朝のマリア・ルイーザ王女と結婚し、その式典を模擬戦争の形式で、スペインの支配するシチリアのパレルモで行った。この時代のスペインはその領土下のイタリア各邦に土着人の身分制的議会を一応認めていたが、それぞれ総督を配置し、マドリードの枢機院から指令を発して、本国本位の支配を行っていた。それは厳しい収奪を行う搾取的な植民地支配であったので、1647年のナポリのマザニエッコの一揆、1674年のメッシナの反乱のように各地でスペイン支配に対する抵抗が行われていた。

このような状況から結婚式の式典をスペインの国威、武力を民衆に印象づけるデモンストレーションとして「戦争式典」が大規模に行われた。本文の書き出しでは、諸外国の支配に苦しんだシチリアの民衆に自由をもたらしたスペインの国王のめでたい結婚式を他の諸国はさておき、第1番目にパレルモで行う意義を強調している。この本はその式典の詳しい記録であり、式典に参加した人たちの衣服の細かな描写は服飾史の面からも興味深いものがある。（植田）